

北海道に 平和の音色を

～高校生被爆ピアノコンサート～

企画から運営・資金調達まで
高校生の自主性を尊重

―被爆ピアノコンサートの共催のきっかけは？―

石田 2022年にも被爆ピアノコンサートを行っていますが、その時は北海道高校生平和大使10周年記念事業として、連合北海道の主催でした。

今回は皆川さんの「ピアノコンサートをもう一度開催したい」という思いを起点に、高校生平和大使を中心とした高校生9人が被爆ピアノコンサートの実行委員会を立ち上げ、自ら企画・運営をしています。連合北海道はその趣旨に賛同し、北海道退職者連合と連携しながら共催という形をとりました。そのため、会場の手続きや文書の確認など一部のサポートのみで、基本

は高校生の自主性に任せています。会場の選定や交渉だけでなく、クラウドファンディングを活用した運営資金集めも自分たちで考え、実行しました。

―開催に向けて苦労したことは？―

皆川 すべてが大変でした！
例えば、クラウドファンディングに掲載する文章一つでも、サイト運営の方からいろいろ指摘を受けて何度も修正しました。さらに、やっとプロジェクトが立ち上がった、直後は募金が集まったのですが、だんだん停滞して……。その後、札幌市内の労組や産別の事務所を訪ねて協力をお願いしたり、全国の平和大使にも呼び掛けて「高校生1万人署名活動」のインスタグラムでPRしてもらったり、たくさんの方に助けてもらいました。最終的

平和への強い思いや行動が
多くの大人に刺激を与える

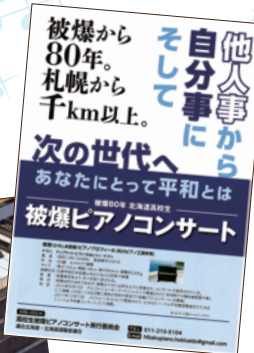
―平和大使としては1万人署名活動が中心ですか？―

皆川 はい。街頭署名活動は地域の人や訪れた人に一番目に触れてもらえる機会ですので、そこでのアピールを継続していくことが、平和への思いをつなぐことに直結すると思っています。たとえ署名をしてもらえなくても、核兵器廃絶を訴えていることに気づいてもらえるだけでも、有意義だと思います。

私は平和大使として、集めた署名を国連に届けたりもしましたが、平和大使でなくても自ら毎月、署名活動に参加する高校生もいて、そういう人のほうが私よりずっと平和に対する強い気持ちを持っていると思うんです。みんなの気持ちを背負って国連に行ったり、いろいろな場所で自分の思いを伝えたりするのであれば、まずは自分が署名活動にきちんと取り組まなければいけないと考えています。

―高校生の平和への思いを受けて…。

石田 皆川さんの案で昨年8月、プロ野球の試合に合わせてエスコンフィールドの最寄り駅で署名活動を行ったところ、多くの方に署名をしていただき



連合北海道は核兵器廃絶に向けて、若い世代に対する運動の喚起と継承・発展をめざし、2013年に北海道退職者連合とともに北海道高校生平和大使派遣実行委員会を組織。国連への高校生平和大使の派遣や、「北海道核兵器廃絶高校生1万人署名活動」などを支援してきた。戦後80年となる今年、その活動の一つとして、高校生自らが「被爆ピアノコンサート」を企画。3月29日から4月1日の4日間、札幌や新千歳空港の会場で80年前に広島や長崎で被爆したピアノが奏でられた。どのような背景や思いから開催に至ったのか、連合北海道市民運動局の石田敬雅次長と、第27代高校生平和大使で、被爆ピアノコンサート実行委員長の皆川舞奈さんにお話を聞いた。



▲皆川舞奈(みながわ まな)さん
「被爆ピアノの鍵盤はザラザラで傷だらけ。でも、いろいろな場所で演奏されて、いろいろな人に『平和って何だろう』って聞いてきた傷なんだと思います」

―なぜもう一度開催したいと思ったのですか？―
皆川 2025年3月末に北海道被爆者協会が解散してしまうことが大きな理由の一つです。被爆者協会のホーム

ました。従来のやり方をより良い方向に発展させるための発想力や行動力に、私たち大人も進化しなければと感じました。

署名活動の場では、「若い人がこんなに平和運動に真剣に取り組んでいるんだね。頑張ってるね」など多くの温かい声援をいただいたり、組合員からも「若い高校生が頑張っているからこそ

平和について関心を持った」といった声が届いたりしています。

終戦から80年が経ち記憶が薄れる中で、高校生たちの一生懸命でひたむきな姿に刺激を受ける人は多くいます。連合北海道としても、これからも彼らを後押ししながら平和運動を強く推進していきたいと考えています。

―ありがとうございました。―

高校生被爆ピアノコンサートの様子

現地訪問



▲会場では署名や折り鶴も受け付けました。



▲今回、広島から運ばれてきたのは、爆心地より3キロの民家で被爆した1938(昭和13)年製のピアノ。刻まれた無数の傷が原爆の威力を物語ります。



▲Sapporo55ビルで行われた初回の会場は、すぐに満席に。子どもから大人までたくさんの人が立ち止まってピアノの音色を楽しみました。

▲石田敬雅(いしだ けいが)さん
「北海道高校生平和大使の活動は脈々と受け継がれ、その発展とともに北海道の平和運動の輪も広がってきました」